| 13 | 附音挿図英和字彙 | |
|---|---|---|
| 830.3-111 | 明治 6 (1873) | 柴田昌吉・子安峻編 |
| 英英辞典を基にして編集された英和辞典。「薩摩辞書」と並んで明治前半期の英和辞典に大きな影響を与えた。 | | |

◆ 幕末から明治にかけての英和辞典は、『英和対訳袖珍辞書』等にみられるように、英蘭辞典のようなオランダ語系の辞書に依存するものが多かった。日本人が英和辞典を編むとなれば、それまでのオランダ語の知識を手引きとするのが最も早道だったから、それは当然のことであった。このような大勢の中で、本書はオランダ語に頼らずに英英辞典からつくられた英和辞典である。原本には英国人オウグルヴィー(J.Ogilvie 1797－1867) の "Comprehensive English Dictionary" (1863) が用いられた。

編者の柴田昌吉(1841－1901) は長崎出身の通詞、子安峻 (たかし) (1836－1898) は大垣藩の出身である。子安は維新後外務省に勤め、後に読売新聞を創刊した。

書名中の「附音」とは、英単語の発音をウェブスタ-式の発音記号で表記したことを示し、「挿図」とは文中に挿し絵 (木版) を入れたことを示している。挿し絵は、原本に銅版画が挿入されていたことにならって入れられたものである。挿し絵入りの英和辞典は我が国では本書が最初である。

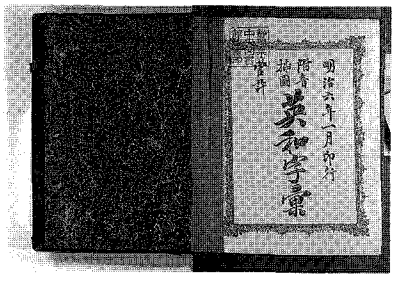
訳語の特徴から『改訂増補英和対訳辞書』やロプシャイト (W.Lobscheid) の『英華字典』( "An English and Chinese Dictionary" (1866,1869) **G823-11**) 等が利用されたと推測されている。

装丁は完全な洋装であり、紙も洋紙が使われている。全1548ページ、背表紙には皮が使われていて堂々たる趣をもった辞典である。

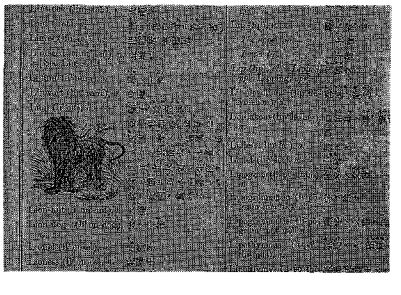
本書は、『薩摩辞書』と並んで明治前半期の英和辞書界を代表し、近代的訳語の源泉として後続の英和辞典に大きな影響を与えた。

◆ 当館所蔵本は、日本語及び英語の標題紙、諸言等の最初の 8 ページ分が電子複写による複製で補われているものの、全体良好な状態で保存されている。

**＜参考資料＞** 『柴田昌吉伝』(K347-954)
『大阪女子大学蔵日本英学資料解題』(830-37)
『蘭和・英和辞書発達史』(830.1-102)



**13 附音挿図英和字彙**



**13 附音挿図英和字彙**